

# 多剤投薬の患者に対する病院薬剤師の業務実態調査

業務調査日票

(日本病院薬剤師会学術第1小委員会)

対象患者は、2016年3月1日～3月31日に退院した患者の内、下記の基準をすべて満たす、1番目と2番目に退院した患者です。詳細は記載要綱をご確認ください。

- ◎年齢は、入院時に65歳以上とし、その上限は定めません。
- ◎性別は不問。
- ◎入院時に6剤以上内服薬を服用していた患者。(服用薬剤が4週間以上投与されているもの)
- ◎薬剤師が薬学的管理に関与した患者(薬剤管理指導の算定有無、病棟薬剤業務実施加算の算定有無は問わない)
- ◎1病棟での症例報告数や同一の薬剤師の症例報告数は2症例以内
- ◎除外患者(①高度急性期病棟に入院中の患者②短期滞在手術等基本料の算定患者③がん化学療法実施中の患者④がん緩和ケア治療中の患者⑤病状の急変などにより、緊急転院となった患者⑥死亡退院の患者⑦その他、研究責任(分担)者が研究対象者として不適当と判断した患者)

1. 担当薬剤師情報について、ご回答ください。	
1) 担当薬剤師名	
2) 薬剤師としての経験年数	年目
3) 薬剤師の病棟業務としての経験年数	年目

2. 患者情報について、ご回答ください。	
1) 調査番号 ※調査番号登録票で割り付けた番号を記入下さい。	
2) 入院期間 ※調査番号登録票にて自動計算ができます。	日
3) 性別	
4) 入院時の年齢	歳
5) 介護認定	
6) 認知症の有無	
7) 認知症高齢者の日常生活自立度	
8) 障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)	
9) 入院前の場所(居住地または施設など)	
10) 入院時病棟の入院基本料	
11) 入院時の診療科名	
12) 入院時の主病名	
13) その他合併症など	
14) 退院後の場所(居住地または施設など)	
15) 退院時病棟の入院基本料	
16) 退院時の病床機能区分	
17) 退院時の診療科名	
18) 入院時の状況についてお聞かせください。 入院契機となった要因に、薬物有害事象が関連している可能性はありましたか？	
19) 入院時の状況についてお聞かせください。 入院契機となった要因に多剤投与が関連している可能性はありましたか？	
20) 入院期間中の状況についてお聞かせください。 新たな疾患(入院契機の主病名を含む)により、退院後も継続服用する薬剤の追加はありましたか？	

3. 薬剤師の関与状況について、ご回答ください。	
1) 病棟薬剤業務実施加算	
2) 薬剤管理指導業務の実施	
3) 薬剤管理指導 算定回数	回
4) 算定の有無にかかわらず指導や薬学的管理の実施回数 ※(1日最大1回としてカウントする)	回
5) 入院期間中にかかりつけ薬局(かかりつけ薬剤師)と情報交換を1回以上実施しましたか？	
6) 入院期間中に回診に1回以上参加しましたか？	
7) 入院期間中にカンファレンスに1回以上参加しましたか？	

# 多剤投薬の患者に対する病院薬剤師の業務実態調査

業務調査日票

(日本病院薬剤師会学術第1小委員会)

対象患者は、2016年3月1日～3月31日に退院した患者の内、下記の基準をすべて満たす、1番目と2番目に退院した患者です。詳細は記載要綱をご確認ください。

- ◎年齢は、入院時に65歳以上とし、その上限は定めません。
- ◎性別は不問。
- ◎入院時に6剤以上内服薬を服用していた患者。(服用薬剤が4週間以上投与されているもの)
- ◎薬剤師が薬学的管理に関与した患者(薬剤管理指導の算定有無、病棟薬剤業務実施加算の算定有無は問わない)
- ◎1病棟での症例報告数や同一の薬剤師の症例報告数は2症例以内
- ◎除外患者(①高度急性期病棟に入院中の患者②短期滞在手術等基本料の算定患者③がん化学療法実施中の患者④がん緩和ケア治療中の患者⑤病状の急変などにより、緊急転院となった患者⑥死亡退院の患者⑦その他、研究責任(分担)者が研究対象者として不適当と判断した患者)

4. 服薬支援状況について、ご回答ください。	入院時	退院時
1) 服薬自立度		
2) 服薬状況		
3) 一包化の有無		
4) 服薬カレンダー等の使用状況		
5) 服薬が困難な身体状況(手指や視力の障害など)		
6) その他(フリーコメント)		

5. 処方内容などについて、ご記入ください。	入院時	退院時
1) 処方医療機関数		
2) 処方医数		
3) 入院時まで服用していた、または退院以降服用する薬剤品目数(※外用薬、注射薬は含まない)		
4) 入院時まで服用していた、または退院以降服用する薬剤の成分数(※外用薬、注射薬は含まない)		
5) 服用の錠数・カプセル数など		
6) 服薬回数		
7) 1日薬価の合計金額		
8) 入院時まで服用していたOTC薬(※服用していなかった場合は記入の必要はありません)		

6. 入院時と比較して、退院時処方までに中止・減量となった薬剤について、下記にご記入ください。				
	薬剤(※商品名、規格など正式名称をご記入ください)	用量	項目	主たる理由
1)				
2)				
3)				
4)				
5)				
6)				
7)				
8)				
9)				
10)				

7. 入院時と比較して、退院時処方に追加された処方または増量された薬剤について、下記にご記入ください。				
	薬剤名(※商品名、規格など正式名称をご記入ください)	用量	項目	主たる理由
1)				
2)				
3)				
4)				
5)				
6)				
7)				
8)				
9)				
10)				

# 多剤投薬の患者に対する病院薬剤師の業務実態調査

業務調査日票

(日本病院薬剤師会学術第1小委員会)

対象患者は、2016年3月1日～3月31日に退院した患者の内、下記の基準をすべて満たす、1番目と2番目に退院した患者です。詳細は記載要綱をご確認ください。

- ◎年齢は、入院時に65歳以上とし、その上限は定めません。
- ◎性別は不問。
- ◎入院時に6剤以上内服薬を服用していた患者。(服用薬剤が4週間以上投与されているもの)
- ◎薬剤師が薬学的管理に関与した患者(薬剤管理指導の算定有無、病棟薬剤業務実施加算の算定有無は問わない)
- ◎1病棟での症例報告数や同一の薬剤師の症例報告数は2症例以内
- ◎除外患者(①高度急性期病棟に入院中の患者②短期滞在手術等基本料の算定患者③がん化学療法実施中の患者④がん緩和ケア治療中の患者⑤病状の急変などにより、緊急転院となった患者⑥死亡退院の患者⑦その他、研究責任(分担)者が研究対象者として不適当と判断した患者)

8. 入院時業務内容(持参薬鑑別時またはその前後に行った業務内容)について、ご回答ください。	
1) 入院時に持参薬鑑別を行いましたか？	
2) 1)で「はい」を選択した際、持参薬の残数や残日数の確認を行いましたか？	
3) 1)で「はい」を選択した際、お薬手帳の記載内容を確認しましたか？	
4) 1)で「はい」を選択した際、薬剤管理サマリーの記載内容を確認しましたか？	
5) 1)で「はい」を選択した際、詳細不明時にかかりつけ医に連絡をとり、薬剤情報の収集を行いましたか？	
6) 1)で「はい」を選択した際、詳細不明時にかかりつけ薬局に連絡をとり、薬剤情報の収集を行いましたか？	
7) 1)で「はい」を選択した際、同種・同効薬などの重複投与がありましたか？	
8) 1)で「はい」を選択した際、代替薬の処方提案、服薬計画の提案を行いましたか？	
9) 1)で「はい」を選択した際、減量や中止などの処方提案を行いましたか？	
10) 診療情報提供書の記載内容は確認しましたか？	
11) 医師と治療方針や処方内容についての検討や相談などを行いましたか？	
12) アドヒアランス不良と考える多量の残薬の持ち込みや自宅などに多量に残薬があることを患者や家族などから聴取しましたか？	
13) 患者や家族に対して、薬識の評価や薬剤の管理状況について確認を行いましたか？	

9. 入院中業務内容について、ご回答ください。	
1) 薬剤の有効性について	
2) 薬剤による副作用について	
3) 入院の契機となった疾患以外の診療科(主病名以外)の薬剤について	
4) 服用回数など用法の複雑さについて	
5) 患者の状態に応じた剤形変更の必要性について	
6) 臨床検査値(腎機能、肝機能、血算、電解質、PT-INRなど)について	
7) 定期的に検査が必要な薬剤の検査実施状況(検査結果も含む)について	
8) TDMが必要な内服薬の検査実施状況(検査結果も含む)について	
9) 食事に影響する相互作用などについて	
10) 退院時共同指導について	

10. 退院時業務内容について、ご回答ください。	
1) 退院時指導を行い、処方薬・副作用情報・指導の要点などをお薬手帳に記載しましたか？	
2) 処方薬・副作用情報・入院期間中の処方変更や薬学的管理に関する事項を薬剤管理サマリー(他医療機関、保険薬局向けへの薬剤情報提供書)に記載しましたか？	
3) 入院中の処方変更に関して、かかりつけ医師に情報提供しましたか？	
4) 入院中の処方変更に関して、かかりつけ薬剤師に情報提供しましたか？	
5) MSWやケアマネジャーなどに服薬情報を提供しましたか？	
6) 退院後、訪問看護師が関与される場合に訪問看護師に服薬情報を提供しましたか？	
7) 患者または家族に対して、退院に向けた指導、または退院時に服薬指導を実施しましたか？ (※退院時薬剤情報管理指導料の算定の有無にかかわらず)	

# 多剤投薬の患者に対する病院薬剤師の業務実態調査

業務調査票

(日本病院薬剤師会学術第1小委員会)

対象患者は、2016年3月1日～3月31日に退院した患者の内、下記の基準をすべて満たす、1番目と2番目に退院した患者です。詳細は記載要綱をご確認ください。

- ◎年齢は、入院時に65歳以上とし、その上限は定めません。
- ◎性別は不問。
- ◎入院時に6剤以上内服薬を服用していた患者。(服用薬剤が4週間以上投与されているもの)
- ◎薬剤師が薬学的管理に関与した患者(薬剤管理指導の算定有無、病棟薬剤業務実施加算の算定有無は問わない)
- ◎1病棟での症例報告数や同一の薬剤師の症例報告数は2症例以内
- ◎除外患者(①高度急性期病棟に入院中の患者②短期滞在手術等基本料の算定患者③がん化学療法実施中の患者④がん緩和ケア治療中の患者⑤病状の急変などにより、緊急転院となった患者⑥死亡退院の患者⑦その他、研究責任(分担)者が研究対象者として不適当と判断した患者)

11. 本症例に関する服薬アドヒアランスへの対応や処方提案等に使用した参考書籍やツールについて、ご回答ください。	
1) 高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015	
2) STOPP/START2008	
3) beers criteria2012	
4) beers criteria日本版(2008)	
5) 高齢者に対して特に慎重な投与を要する薬物リスト(日本老年医学会2005年)	
6) 各種疾患別ガイドライン(Mindsなど)	
7) 老年医学会などの高齢者医療指針	
8) SCAP法(Safety Correction of Antipsychotics Poly-pharmacy and hi-dose)による抗精神病薬減量支援シート	
9) DIEPSS(薬原性錐体外路症状評価尺度)	
10) 診療報酬上の内服薬・向精神薬多剤投与による処方料などの減額基準	
11) 抗精神病薬(OP換算など)や抗不安薬・睡眠薬(ジアゼパム換算など)などの向精神薬等価換算	
12) CGA7(総合機能評価簡易版)	
13) バーセルインデックス(Barthel Index)	
14) MMSE (Mini-Mental State Examination)	
15) 長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)	
16) 服薬アドヒアランス評価ツール(Morisky score、ask-12、DAI-10など)	
17) その他(上記以外に活用した書籍や基準がある場合は、下欄にご記入ください)	

12. 上記以外に入院中に不適切な多剤投与の削減に取り組まれた業務内容がありましたら、下記にご記入ください

ご協力ありがとうございました。(学術第1小委員会 委員一同)